

統合医学と漢方

責任者:原田 美佳子

コメンテーター:帯津 良一

統合医学(Integrative Medicine)とは通常医学(西洋医学)と代替療法との統合によって生まれた医学である。統合とはインテグレート(Integrate)つまり数学の積分である。積分とは双方を一旦ばらばらに解体したものを集めなおして、まったく新しい体系を築くことである。

一朝一夕にて成るものではない。統合医学の呼び声が高まって久しいとは言え、まだ真の積分された統合医学を私たちは手にしてはいない。そこで、双方を戦略的に配置することによってなんとか統合医学に近づけようとしているのが現状である。そのためには食養生、気功、漢方薬、針灸の漢方の四本柱はすべて、これを活用する。

その際、漢方の本質を見誤ってはならない。漢方は治しではなく癒しの方法である。癒しとは内なる生命場のエネルギーを高めること、治った治らないの二極化ではなく一歩前進の方法であることを忘れてはならない。

今回は、統合医学と漢方について、日本ホリスティック医学協会会長の帯津良一先生をコメンテーターに迎え、ざっくばらんな討論を行いたい。